

●技術情報

Q&A

[5] 有機物分解促進効果

Q5-4 麦稈堆肥には、石灰窒素はどのように使うとよいのですか？

A5-4 夏期に麦稈を材料にし堆肥づくりに取り組んでいる事例を紹介します(埼玉県熊谷農業改良普及センターの指導要領)。

(1) 堆積

- ① 6月25日麦稈収集運搬。
- ② 7月6日堆積作業。
- ③ 麦稈 1,500 kgを約 3.5 坪の広さに6段に積んで3m×2.5m、高さ2.4m になった。
- ④ 水分を握ってにじむ程度にふくませた。
- ⑤ 石灰窒素 75 kg( 麦稈の重量 5%) を添加した。このうち45 kgを積み込むときに各段に分けてまき、残りは(30 kg) 切り返しのときに添加した。
- ⑥ 積み込んだ後、乾燥しないようにビニールシート(古ビニールでもよい)で覆った。

(2) 切り返し

- ① 1回目：8月8日このとき石灰窒素の残り30 kgを添加する。
- ② 2回目：9月25日 実施

約4ヵ月後の10月下旬にでき上がり、容積は約1/6に減り重量は水分75%で約2,000 kgとなった。

次表は群馬県普及技術資料に示されている石灰窒素の添加による良質麦稈堆肥の製造法です。

表 5-3 堆肥づくり事例 ( 麦稈 100kg 当たり)

事 例	準 備	本 積	第 1 回 切 り 返 し	第 2 回 切 り 返 し
A	切断 水かけ 50L	水か 150L け鶏ふ 10kg ん	水かけ 60L 鶏ふん 6kg 過 磷 酸 石 灰 2kg	水かけ 60L
B	切断 水かけ 50L	水かけ 150L 石 灰 窒 1.5kg 素	水かけ 60L 石 灰 窒 1.5kg 素	水かけ 60L
処 理 日 数	1 日	28 日	28 日	21 日

事 例	容 積 重 の 変 化			熟 度 調 査 (3ヵ月 後)		
	A 本 積 時 m <sup>3</sup>	B 2ヵ月 後	B/A % 減 量 比	風 乾 重 g	残 渣 重 g	同 比
何も加えていない	4.2	2.04	49	17.9	8.2	100
A	5.1	0.99	19	19.0	3.6	44
B	5.5	1.18	21	19.5	4.6	56